

出雲市佐田町反辺のイズモコバイモ群生地における植物調査

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

イズモコバイモ *Fritillaria ayakoana* Maruyama et Naruhashi は島根県固有種であり、本種の命名に用いられた標本が採取された出雲市佐田町反辺の自生地は盗採や環境の悪化によりほとんど見る事ができなくなっている。しかし、この地のすぐ近くの個人宅裏山の私有地において本種の群落が残っている。そして、このイズモコバイモの群生地は2019年より「発見地反辺のイズモコバイモを守る会」によって維持管理が行われており、3月の一般公開日のみこの群生地に入ることができるが、イズモコバイモの開花数は2022年に5000株を超えていることから、島根県内最大級の群生地といっても過言ではないと思われる。

(※反辺のイズモコバイモ群生地は2022年に出雲市の天然記念物に指定されました)

このイズモコバイモの群生地において、2020年3月～2021年3月の約1年をかけて、植物相の調査を行ったところ45科121種類の植物を確認した。そしてこれらのうち、イズモコバイモと開花時期が重なる植物が18科26種あった。これらは出雲地域の低地や丘陵地にふつうに生育する種であった。また、群生地内に5カ所コードラート（方形区画）を設置して、植生調査を行ったところ、イズモコバイモの生育を確認した区画内には、ヤマアイとミズヒキが比較的多くを占めているのに対して、イズモコバイモの生育が確認できない区画ではカテンソウが優占していることを確認した。限られた群生地の中であってもイズモコバイモの適した生育環境の違いによる、植物相の違いがあることが確認された。

